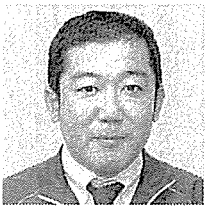
環境対応で事業拡大へ

トラックレンタルの「ハーツ」

環境負荷低減に取り組む運輸事業者を認定する「グリーン経営認証」。具体的な環境保全活動をまとめたグリーン経営推進マニュアルに基づき、中小事業者でも取り組みやすいことから普及拡大が進んでいる。運転手付きトラックレンタルサービス「レントラ便」を手掛けるハーツ（本社東京都品川区南大井5の12の3、電話03・5762・0072）の山口裕詮社長は「（認証は）全社一体で環境に取り組んでいるシンボル」と強調する。



山口裕詮社長

〝グリーン経営認証〟取得

全社一体でエコドライブ向上に取り組む

同社は1995年設立。社員数16人、保有車両17台で、昨年8月にグリーン経営認証を取得した。「トラック事業者は排気ガスをまき散らしながら仕事をさせてもらっている。我々には今の地球を良い形で子孫にバトンタッチする責務があり、地球本位で何ができるか考えた」（山口社長）。

06年に立ち上げたレントラ便は、従来の引越しや運送、レンタカーにない新しいサービス。料金体系が時間単位で分かりやすく、軽自動車から4トントラックをそろえ、軽は30分3150円で利用できる。

レントラ便を始める以前は大手運送会社の100％下請けだった。山口社長は「脱下請けを掲げ、新サービスを進めるには一般のお客様に対して信頼を築いていかなければならない」とし、認証取得はそうした取り組みの一環とも話す。

社員の意識向上に効果

同社は、03年から毎日、運行車両1台ごとの燃費管理を実施。07年にはドライブレコーダーによるエコドライミュニケーションツールにも役立っている」（同社長）という。

また、保有車両も最新の環境規制に対応。

こうした取り組みを重ねていたため、約3カ月という短期間で認証を取得。燃費は昨年14・7％改善し、原油高の影響も抑えられた。

であり、こうした意識の浸透はサービスの接客など、すべてのモチベーション向上につながっているという。

社内にはレントラ便を利用したユーザーからの感謝の手紙が多数はられている。

個人や法人、学校・団体などで様々な活用が広がっており、前8月期のレントラ便の売上高は2・4倍に増加、全体に占めるウエートは6割を超えた。

愛知など中部地区に加え、関西や福井の一部で地元企業と提携し、事業展開を拡大。

「レントラ便をはじめ、環境に対する考え方が共感できるパートナーを選んでいく」（同社長）方針。

グリーン経営認証は、運営組織の交通エコロジー・モビリティ財団（東京都千代田区）が03年に開始。現在、認証事業所数は約6千にのぼり、トラックの平均燃費は全国平均よりも25・3％高い。

山口社長は「環境対応は絶対に避けて通れない。経営の生き残りにもつながる」と話している。

社員の意識向上に効果

ミュニケーションツールにも役立っている」（同社長）という。

また、保有車両も最新の環境規制に対応。

こうした取り組みを重ねていたため、約3カ月という短期間で認証を取得。燃費は昨年14・7％改善し、原油高の影響も抑えられた。

であり、こうした意識の浸透はサービスの接客など、すべてのモチベーション向上につながっているという。

社内にはレントラ便を利用したユーザーからの感謝の手紙が多数はられている。

個人や法人、学校・団体などで様々な活用

今年はさらに4％の燃費向上を見込む。

〝エコ＝安全運転〟の徹底で、過去3年以上事故がなく、保険料率も大きく下がった。

山口社長は認証取得のポイントについて、「経営者が旗を振り、社員を巻き込んでいくことが大切」と指摘。認証は社員一人ひとりが環境に取り組んでいることの「シンボル」

が広がっており、前8月期のレントラ便の売上高は2・4倍に増加、全体に占めるウエートは6割を超えた。

愛知など中部地区に加え、関西や福井の一部で地元企業と提携し、事業展開を拡大。

「レントラ便をはじめ、環境に対する考え方が共感できるパートナーを選んでいく」（同社長）方針。

グリーン経営認証は、運営組織の交通エコロジー・モビリティ財団（東京都千代田区）が03年に開始。現在、認証事業所数は約6千にのぼり、トラックの平均燃費は全国平均よりも25・3％高い。

山口社長は「環境対応は絶対に避けて通れない。経営の生き残りにもつながる」と話している。